

2022年1月7日

日本銀行大阪支店

関西金融経済動向

【全体感】

関西の景気は、消費への新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している。

輸出は、一部に供給制約の影響を受けつつも、増加基調にある。設備投資は、増加している。個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している。住宅投資は、持ち直している。公共投資は、高水準で推移している。こうした中で、生産は、一部で供給制約の影響による弱めの動きが残っているものの、基調としては緩やかな増加を続けている。雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。この間、企業の業況感は、製造業・非製造業ともに引き続き改善している。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症や供給面の制約が、当地の経済金融情勢に与える影響などを注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、高水準で推移している。

輸出は、一部に供給制約の影響を受けつつも、増加基調にある。

設備投資は、増加している。

個人消費は、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している。

百貨店販売額、スーパー等販売額、外食売上高、旅行取扱額は、持ち直している。乗用車販売は、供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直しの動きがみられる。家電販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。

住宅投資は、持ち直している。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、一部で供給制約の影響による弱めの動きが残っているものの、基調としては緩やかな増加を続けている。

内訳をみると、輸送機械関連において供給制約の影響による弱めの動きが残っているものの、基調としては生産用機械を中心に緩やかな増加を続けている。

3. 雇用・所得動向

雇用・所得環境をみると、弱い動きが続いている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台前半となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて低水準で推移しているが、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が一部にみられている。

6. 金融情勢

預金残高は、個人預金や法人預金の増加を背景に、前年比3%台半ばのプラスとなっている。

貸出残高は、既往の企業向けの資金繰り支援融資の増加から高水準で推移しており、前年比0%程度となっている。

預金金利は、低水準で推移している。

貸出金利は、低下している。

以 上